Interview
さくらだより
vol. 69
2026年9月18日発行



ユニー　栗原支店 主任

熊居（くまい）　寛之（ひろゆき）

株式会社ユニーへの入社から26年、幅広い業務を通して広い視野を培ってきた熊居寛之。２０２５年のさくら株式会社とのグループ統合で環境が変化する中、熊居が現場で最も大切にしていることとは。これまでの歩みと現在の想いを追った。

多岐にわたる現場経験が育んだ強み

ユニーに入社したのは２０００年。かつて同社に在籍していた父親の縁で、当時の会長から仕事の手伝いに誘われたのがきっかけだった。入社後の業務は多岐にわたり、土木作業での掘削から建物を建てて屋根を付ける工程、重機の操作、さらには機械の据え付けや溶接、配管に至るまで、あらゆる仕事に携わってきた。単一の作業の繰り返しではなく、多種多様な仕事を任されたことが、結果的に長く続けられる原動力を生んだと振り返る。

十数年前の岡山への出張では、作業が遅くまで及ぶ日もあった。それでも、作業を終えて対岸に見える高松の夜景を眺めながら、仲間と「またこの夜景を見て帰るんだな」と声を掛け合い帰った日々は、今でも印象深く残っているという。そうしたさまざまな現場で数々の工程を経験してきたからこそ、現場全体を見渡す視野の広さでは誰にも負けないという強い自負を持っている。

苦い経験から学んだ確認作業の重要性

長年のキャリアの中では、冷や汗をかくような失敗も経験している。５年ほど前の宇都宮の現場でのことだ。

機械を据え付ける基礎コンクリートの高さを決める際、協力会社の作業員を含め４～５人で図面を確認していたにもかかわらず、全員が数値を読み間違えていた。生コンクリートの打設を終えて社内検査を行った段階で、10センチのズレが発覚したのだ。コンクリートを削り落として打ち直すことになり、工期は１週間から２週間ほど遅れてしまった。何十万、何百万円規模の損失を生む再施工となり、当時は真っ青になったという。

この苦い経験を経てからは、同じミスを繰り返さないよう、現場で「過去にこういうことがあったからね」と声を掛け合い、入念に確認を重ねるようになった。失敗をチームの教訓として共有する姿勢が、確実な作業の土台となっている。



▲現場でのお写真

円滑な現場を生み出す協調性とコミュニケーション

数々の現場を経験してきた熊居が現在最も大切にしているのは、協調性だ。大規模な建設現場などでは、複数の業者が同時に作業を行う。職人同士の口調が荒くなり現場の空気がギスギスしてしまうと、他の業者との連携にまで悪影響を及ぼすと痛感している。些細な摩擦が全体の作業効率を低下させる場面も見てきた。

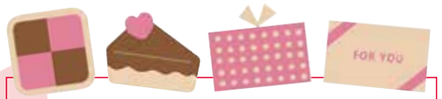
喧嘩口調でぶつかるよりも、互いに仲良く取り組んだほうが結果的に仕事は早く進む。このシンプルな現場の真理に気づいてからは、相手の立場にかかわらず、まずは話し方を考えてから伝えるようにしている。これまで長く働き続けられた秘訣も、人との関わり合いの中にあると感じている。意見がぶつかることがあっても翌日には引きずらない、さっぱりとした関係性を築ける仲間たちに恵まれたことも、日々の働きやすさの大きな理由だ。

統合がもたらす新たな刺激と若手へのエール

２０２５年に行われたさくら株式会社とのグループ統合は、熊居に前向きな変化をもたらした。これまで慣れ親しんだ自社の環境に、配管をはじめとする新たな専門技術を持つ職人が加わり、異なる施工手順やアプローチを間近で学ぶことで大きな経験値を得ている。また、行動力のある若いメンバーや高い技術を持つ仲間との出会いも、良い刺激になっているという。

若手に向けて、「チャンスがあれば何にでも挑戦する気持ちを持てばいいのではないか」と語る熊居。「失敗も経験のうち」という言葉には、数々の現場を乗り越えてきたからこその実感がこもっている。これから現場を担っていく若い世代に対し、物怖じせずに挑戦を続けてほしいと期待を寄せている。

長年の経験に裏打ちされた広い視野と、他者と円滑に仕事を進める協調性。熊居はこれからも新しい技術や仲間との出会いを楽しみながら、現場の最前線に立ち続けるだろう。



企業情報

設立年：2012年4月
年商（さくら株式会社）：12.8億円
年商（さくらグループ全体）：17.2億円
※ 2025年3月決算時点

熊居 寛之さんってこんな人！

誰とでもすぐに打ち解け、周囲をよく見てさりげなくサポートしてくれる熊居さん。今回は共に切磋琢磨する小山田さんと若野さんにお話を伺いました。職場の雰囲気をパッと明るくするムードメーカーでありながら、強い責任感で仲間を支える頼もしい存在。熱い絆で結ばれた仲間たちが語る、熊居さんの姿をご紹介します。



ユニー　栗原支店
主任
小山田（おやまだ） 弘幸（ひろゆき）さん

業務上の関係と関わり

私の方が、入社が３か月早いだけで、ほぼ同期です。栗原支店で同じ主任として切磋琢磨しながら仕事をしています。明るい性格で、皆とのコミュニケーションの取り方はもちろん、仕事に関しても責任感が強い頼もしい存在です。

熊居さんを一言で表すと

栗原支店の
マスコットキャラクター

年齢層の高い栗原支店ですが、皆が明るい熊居さんに話しかけています。話しているときの熊居さんの笑顔がかわいく、皆からも頼りにされており、栗原支店にはなくてはならない存在です。

思い出のエピソード

共に成し遂げた達成感

熊居さんとは小さい頃からの知り合いです。前職でも20年以上一緒に仕事をしており、プライベートでも飲みに行く仲です。二人で仕事をしてきた中、何度か意見を戦わせたこともありますが、今ではそのお陰で仕事もスムーズになりました。辛い仕事や苦しい仕事を、二人で頑張って成し遂げてきたことに、大きな達成感を覚えています。

メッセージ

これからも栗原支店の職場を明るくし、皆を和ませてください。仕事に関しても、お互いに切磋琢磨して頑張っていきましょう。たまにはまた飲みに行きましょう。今後も末永くよろしくお願いします。

業務上の関係と関わり

上司と部下で年代が近く切磋琢磨し合う間柄。一緒に現場で互いに意見を言い合い、わからないことがあれば補い合って仕事をする仲です。

熊居さんを一言で表すと

職場の雰囲気を明るくする人

誰とでもすぐに打ち解け、周りの人たちのこともよく見て助け舟を出し、職場を和ませる人です。

思い出のエピソード

以前、現場が重なり大変だったとき、「こっちはなんとかなるから、他の現場行って納めてきてください！」と声をかけてくれたり、一人で悩んでいれば相談に乗ってくれたりすることもありました。

メッセージ

これからもお互いに安全第一で怪我のないように頑張っていきましょう！



ユニー
栗原支店長
若野（わかの） 直樹（なおき）さん

食欲の秋！
心を満たす「推しグルメ」

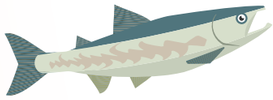
秋の味覚が恋しい季節。今回は、庄司さんと菅原さんの「推しグルメ」を、おいしい出会いのエピソードとともにお届けします。いつかは食べたい憧れの極上メニューも必見です！



企画広報課
庄司（しょうじ） 美咲（みさき）さん

おすすめの食べ物

「旬魚・鮨の店 あら浜 亘理店」のはらこ飯





出会いのきっかけ

全国共通だと思っていた郷土料理

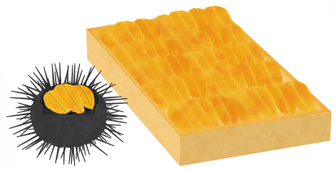
幼いころからの大好物で、全国で食べられているものだと思っていました。小学校のころに、はらこ飯が宮城県の郷土料理で、他県ではあまり食べられていないということを知ったときには、「このおいしさが知られていないなんて！」と、衝撃を受けたのを覚えています。

おすすめの理由

県外へ出た友人が、毎年シーズンになるとはらこ飯を食べるためだけに宮城に帰ってきます。その友人とお店を巡った結果、私のナンバー１は「あら浜」になりました。

一度は食べてみたい料理

「片倉うに屋」の生うにお造り御膳





プラント事業施工管理本部
図面担当
菅原（すがわら） 和美（かずみ）さん

おすすめの食べ物

「そば処 樹の里」の天ざる



出会いのきっかけ

そば欲

そばが無性に食べたくなり、探していたらたどり着きました。そばが食べたくなり時間があるときは、ドライブがてら出向くことがあります。

おすすめの理由

おそばが好きでよく食べますが、やはりつゆも大事だと思います。そばもつゆも大変私には合っており、おいしくいただけるので、おすすめです。また、敷地内では天然のはちみつも販売されており、こちらも必見です。

一度は食べてみたい料理

山海の美味が詰まった高級蒸しスープ

佛跳墻（ぶっちょうしょう）という料理は、中国の高級蒸しスープなのですが、干し鮑、ふかひれ、なまこ、魚の浮袋、干し貝柱などの高級乾物がぎっしり。仕込みには何日もかかり、長時間かけて山海の美味から食材のエキスを抽出したスープで、幾重にも折り重なる贅沢なつまみに満ちているそうです。以前テレビで見たことがきっかけで知り、一生に一度は食べてみたいと思っています。